

11 番(小川義昭君)

議席番号 11 番、小川義昭でございます。

山田市長におかれましては、去る 11 月 11 日の白山市長選挙において、無投票による 2 期目の当選を果たされました。山田市長は初当選以来、この 4 年間にわたり対話と参加の基本姿勢を堅持され、地区公民館単位のまちづくり会議などを通じて、市民主体の政策をぶれることなく推進してこられました。

とりわけ、何事に対しても私心を感じさせず、市民に対しても、仕事に対しても公明正大かつ真摯に向き合ってこられた清らかな政治家としての生き方が市民の共感を得て、無投票という晴れやかな結果につながったことは言うまでもありません。この場をおかりして、改めて再選への祝意を表したいと存じます。おめでとうございます。

既に山田市長からは、2 期目の新たな 4 年間に向けての覚悟や心意気を 12 月会議開会時の提案理由説明においてお聞きしていますが、山田市長が思い描かれる白山市の理想像は、私がかねてより胸に抱いているイメージとほぼ同じものであろうと考えています。

端的に言いあらわすならば、まちづくりの方向性について、恐らく共通のベクトルを持っていると申し上げていいでしょう。それが双方の信頼感、親和に通じ、市政の安定感にもつながっていると、私は高く評価しています。

私自身は常々、安心して我が子を産み育てたいと願う若い夫婦が暮らしたくなるまち、お年寄りがいつまでも壮健に暮らせるまちこそが白山市が目指すべき姿であると強く念じています。市民が主役の市政にとって、福祉、医療、介護、子育て環境の充実は、全ての施策が帰結するゴールといって差し支えありません。それゆえに改めて山田市長と子どもこのまちに住んでよかったと、市民の心が一つになるまちづくりを進めていこうと肝に銘じています。

その上で、今 12 月会議の一般質問においては、私はまちづくり、ひとづくり、子育て支援について、自分なりの提言を申し上げたいと思います。

平成 17 年の自治体大合併により、白山市は隣接していた従来の 1 市 2 町 5 村が 1 つとなりました。これに伴う規模の拡大は、白山市政に行政の能力向上、効率的な行政運営というメリットをもたらしましたが、同時に行政規模の拡大が住民と行政の距離を隔ててしまう問題、白山ろく地域における過疎化の一層の表面化といった問題が浮き彫りとなっています。

こうした問題は、平成の大合併によって、全国で指摘され、解決策がさまざまに模索されておりますが、近年は地域と行政の連携、すなわち協働的な手法が多彩に試みられ、地域がさまざまな形で公共サービスの担い手となる協働型社会の構築が急務となっています。

かかる時代の趨勢を背景に、白山市は昨年策定した第2次白山市総合計画において、地域と行政が手を携え、まちづくりに取り組む市民協働でつくるまちづくりの推進を盛り込んでおられます。

その上で、こうした施策を推進するマンパワーの養成に向け、地域の魅力創生に深い関心を抱き、まちづくりに携わろうとする市民を対象にまちづくり塾を創設し、塾生の募集に乗り出しています。このキックオフイベントとして去る10月8日に、新しい地域コミュニティの必要性と題した、作野宏和、島根大学教授による講演会が市民交流センターで開催されています。

こうした取り組みが動き出していることに、私は大いに期待するものですが、具体的にはいかなる成果を目指しておられるのか、4点に関して質問いたします。

最初に、市民協働でつくるまちづくり塾の設立趣意はどのようなものなのか。さらには、まちづくり塾生の役割及び今後の具体的な活動内容についてお聞きいたします。

2点目、キックオフイベントの定員は200名でしたが、当日はどの地区から何名の市民が参加されたのか、参加者の反応はどのようであったのかをお伺いします。

3点目、まちづくり塾生募集の主管部署は協働推進室ですが、どのような方法で塾生を募集したのでしょうか。また、塾生は各地区で10人程度と聞き及んでいますが、現在の募集状況を初め募集の実態についてお答えください。

4点目、今後まちづくり塾は、講習会や講演会など、さまざまな形で展開するのですが、年間を通してどの地区で何回にわたって開催していくのか、その活動頻度をお聞かせください。

最後に、こうした取り組みの達成年度をどう見据えておられるのか、お伺いいたします。